

KLIS TODAY

No.
15

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

第3回 学生主体による大学説明会

泉 沙也香

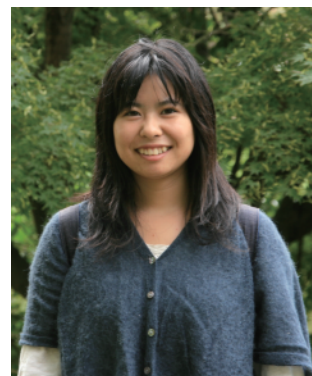
7月30日、知識情報・図書館学類では今年も学生（1・2年生を中心とした）主体の大学説明会が行われました。今年は学生主体での説明会が3年目を迎えるということで、例年好評であるキャンパスツアーやUstream中継に加えて、新たな試みにも挑戦しました。

私は2年前、一高校生として参加し、さらに昨年は運営側として大学説明会に関わってきました。両方の立場に立って感じたことは、この学類で何ができるかがわかりにくいということでした。そこで、少しでも本学類で何ができるのかを伝えられたら—という思いで、実際にiPadの使用を体験できる企画や、本学類の教員、学生および院生へのインタビューをまとめた動画の放映を行うなどの企画を盛り込み、説明会を構成しました。

今回の説明会では、昨年度までこの説明会に関わっていた先輩方を含め、たくさんの方々にご協力いただきました。結果、どの企画も好評だったようです。とはいえ、当日のタイムスケジュールの掲示が不十分であったことをはじめ、準備不足であった点は多々ありました。それらはぜひ今後の大学説明会実行委員に引き継ぎ、活かしていきたいと思います。

学生から学生へとつながっていく大学説明会。今後さらに進化していこうこの説明会を、私も楽しみにしています。

（いずみ・さやか 知識情報・図書館学類2年次）



大学説明会の司会を担当して

宮川 行幸

私は大学説明会午前の部の司会を担当させて頂きました。このような経験は初めてで、当日も緊張のなか、試行錯誤しながら壇上に立ったのですが、司会した大学説明会で、少しでも知識情報・図書館学類に興味関心をいただけてもらえたのであれば、幸せなことです。

大学説明会の司会をするなかで、私は「学生による入試・生活体験談」というコーナーにおいて、5人の学生とパネルディスカッション形式で、自らの体験も交えながらお話をしてもらいました。入試体験談というのは受験生によって様々ですし、体調管理を始めとする生活面の体験も含めて、誰にパネリストを依頼するかという点で大変悩みました。

大学説明会という公式のイベントの性格上、模範的な学生が適任かもしれません。みな合格という「成功」の下に入学している入試体験においてはともかく、生活面においては規則正しく生活している、受験生の参考になる学生こそが、自らの体験談を話す上では適任なのでしょう。ところが、私といえば、模範的という言葉にはほど遠い人間です。あまり参考にはならないかもしれません。それでも自分の体験談を交えようと思ったのは、ある種の「自由さ」があるからこそ、大学生活は楽しいのだということを伝えたかったからなのです。

こんな未来が待っているのだから、この大学、この学類に入学したい！と思って欲しかったのです。壇上で堂々と発表してくれたパネリストだって、同じだったと思います。だからこそ、自分が客席の側に座って聞いていたとしても、やっぱりこの学類に入学したい！と確信できた発表だったと思うし、今振り返ってみても、成功であったと思った大学説明会でした。

(みやがわ・みゆき 知識情報・図書館学類2年次)



パネラーとの打ち合わせ風景(左が宮川さん)



司会をする宮川さん

筑波大学の大学説明会は、7月23日－31日の期間の土曜日・日曜日と8月27日に、学類ごとに行われました。節電のため今年度は平日開催でなく、週末の開催となりました。またこの間、アドミッションセンターによる進学相談も並行して実施されました。全体の参加者数は8135名で、知識情報・図書館学類の参加者は320名でした。



学生によるパネルディスカッション
「宿舎、アパート、宅通、どれが良い？」



模擬講義中の松林麻実子講師



キャンパスツアーの様子



キャンパスツアー中、建物の説明の様子



スチューデントトーク
「春日エリア住民の特徴は？」



スチューデントトーク
「オタクの人、正直に手を挙げて！」

茨城県高大連携事業による公開講座

筑波大学では2005年より、茨城県との高大連携事業の一環として、茨城県立高等学校の生徒さんに大学に来て頂き、研究室体験や公開講座（模擬授業）を受けてもらっています。知識情報・図書館学類では2009年より、5月の土曜日2日を使って公開講座を行っています。今年度の公開講座は「メディアと情報」と銘うち、5月14日（土）と28日（土）の2日にわたって催され、多くの方に参加いただきました。2日間の午前は、上保秀夫助教による「ウィキペディアに記事を書いてみよう！」という演習が行われました。さらに14日には後藤嘉宏教授の「マス・メディアとその誤報」、28日には松本紳学類長の「記録メディアの仕組みと変遷」という講義が、それぞれ行われました。

今回、この公開講座を受講した高校1年生2名に、受講の感想を書いていただきました。

筑波大学公開講座を受講しての感想

黒澤 宏明

私たち高校生は今回の講座を受講したことで、さまざまなことを学ぶことができました。まだ高校一年のため、大学というものについての知識が少なく、将来のイメージが掴めない自分にとって、上保先生、後藤先生、そして松本先生の授業はとても刺激的なものでした。

特に印象に残っているのは、上保先生のiPadを使ったウィキペディアに関する授業です。この授業は楽しいだけでなく、情報を発信する際に、信頼性の高い知識を伝えることの大切さなどの現代の情報化社会において必要な知識を与えてくれました。他の先生方の授業も内容の濃いものばかりで、大学の授業の質の高さを感じることができました。

これらのことを通して自分は大学に憧れを感じるようになりました。その憧れを手にするためにも、今の高校生活を充実させ、さまざまな面で精一杯がんばりたいと思います。そして今回のような大学の企画にも機会があれば、積極的に参加していきたいです。最後に、授業を展開して下さいました大学の先生方、本当にありがとうございました。

（くろさわ・ひろあき 並木中等教育学校4年次）



初日冒頭、緊張した面もち（右、阿羅さん）



初日、iPadの配布と調整



二日目、受講風景（左、黒澤さん）

他の高校生にも体験してみしてほしい！

阿羅 さち野

私の場合、高校に入学してすぐの入門合宿で、先生の紹介を聞いたのが今回の講座への受講のきっかけです。元々パソコンを使うのが好きな私は、ウィキペディアに記事を書くという内容に、とても心が惹かれたのです。

実際、二日間の受講は素晴らしかったです。学年も高校も違う高校生たちが集まって、それもいわゆる大学スタイルの講座を受ける。この一味違った感じが、とても新鮮でした。

受講するにあたって私が驚いたのは、大学の教授陣の授業を、二日間とも、それもわかりやすく教えていただいたことです。授業の内容が、まだ学校の情報で教わっていなかったので多少とまどいはありましたが、だんだん興味が湧きました。その後、学校で同じことを教わったときは、もう学んでいるのでとても鼻が高かったです。

そして、やはり一番楽しかったのは、ウィキペディアの講座です。二日目の受講までに、自分の高校について調べ、追加する情報をウィキペディアの自分の高校の記事に書く。この作業は、自分の高校を知る機会になると共に、自分が情報を提供する方々の仲間入りをしたと実感させてくれました。

私は、受講することで得たものがたくさんあります。他の高校生もこれと同じ経験をし、大学の空気を味わうべきだと思いました。

素敵な講座を用意していただき、ありがとうございました。

(あら・さちの 土浦第一高等学校1年次)



修了証書を手に記念撮影



ウィキペディアの各高校の記述内容について
上保助教を交え、熱のこもった討論



二日目、各高校による発表（阿羅さん）

学生による学類広報誌、Milkの発行

高畑 志栞

知識情報・図書館学類広報誌Milkは、本学類の学生と先生を対象にした、学生による広報誌です。去年の春から活動を始め、この9月に、ようやく第1号を発行することができました。年2、3回の発行をめざしており、今は第2号の記事を作成している最中です。広報誌名の“Milk”は、知識情報・図書館学類になじみのある英単語、“Management” “Information” “Library” “Knowledge”の頭文字を取ってつけた名前です。

私たちの学類では、幅広い学問領域を含む学びができますが、他の人が自分とは別の領域で面白いことをしていても、それを知る機会がありません。また、図書館情報学のみならず、知識や情報にかかわるあらゆる学問領域を扱っているため、この学類で何ができるのかわからないということもあると思います。そこで、Milkの記事の中で、いくつかの領域間の橋渡しをすることによって、自分の学類で何ができるのかを理解する手助けとなりたい——この目的のもと、Milkを作っています。

第1号には、研究室訪問記や、電子書籍に関する各専攻の先生の考えをうかがった記事、自宅通学についてのリアルな意見などが載っています。Milkを読むことで、皆さんの学びや生活がより生き生きしたものになるのではないかと期待しています。

今後は、学生の皆さんに興味を持ってもらえたり、楽しんでもらえたりするようなMilkを作っていきたいと思います。学生の方のみならず先生方にもこの広報誌の存在を知っていただき、「こういう記事が読みたい」「こんなことが知りたい」という意見を収集し、その目標に届くような冊子を作ることをめざしています。また、現在9名でMilkを作成していますが、興味がありましたら、ぜひ参加してみてほしいと思います。まだまだ成長していかなければならない部分の多い冊子ですが、お手にとっていただけましたら幸いです。

(たかはた・しおり 知識情報・図書館学類2年次)



Milk 創刊号を手にとる高畑さん（左）と
作成グループメンバーの下城薫理さん



Milk 創刊号の表紙